

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
TEL：03-3259-0662
FAX：03-3293-3319



佐伯謹吾 会長

会長挨拶

会長 佐伯謹吾

「日大土木会の皆様へ」
会員の皆様には、日大土木会の各種事業に対しまして、ご支援・協力をいただき厚くお礼申し上げます。
昨年一月を端緒とする我が国のコロナ禍は、なお終息に時間を要する事態が続いております。本会の活動も、多くの制約を受けている状況です。本来ならば、例年六月に開催される本会の総会も、新型コロナウイルス感染症をめぐる現下の情勢から、今年も総会の開催が困難になり、会員の皆様に

は書面での審議をお願いすることといたしました。お忙しい中、誠に恐縮ですがよろしくお願いいたします。
さて、近年、経済社会の発展とともに、地球温暖化も一因とみられる激甚災害の多発に伴い、土木工学が果たす役割も広がりを見せています。我が日本大学は、一世紀余にわたり、一貫して国土を守り、社会的・経済的活動基盤の整備、良質な生活空間の構築のために必要な土木工学の教育・研究機関として、多くの人材を世に送り出してきました。これらの方々のご努力・ご活躍により日大土木は我が国の土木界でゆるぎない地位を占めるに至っています。
この歴史と伝統を継承し、さらに発展させるためにも、日本大学土木系三学部四学科

を結ぶ本会には、大学教職員・学生・そしてOBの幅広い情報交換、交流、絆構築の場としての継続した活動が期待されています。
皆様方の本会への引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。
会長からの挨拶にありま

本年度の総会は書面審議で開催

す通り、令和三年度の通常総会は書面審議での開催となります。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染が懸念される中、対面式での開催を中止にせざるを得ない状況になりました。これは会員皆様の健康と安全を第一に考え

土木系各学科 主任教授 挨拶

毎号恒例となりましたが、本学土木系三学部四学科の主任教授の先生方より、本会会員向けに挨拶文をいただきましたので、ご紹介させていただきます。



理工学部土木工学科 主任 梅村 靖弘

昨年から主任教授が変更になりましたのは、理工学部土木工学科・梅村靖弘先生と、同交通システム工学科で小早川悟先生であります。その他の二学部各学科の主任は昨年引き続き務められております。
なお、各学科へは毎年本会より教育補助費として皆様からお支払いいただいた会費から支援金として贈呈しております。学生の支援等に役立てていただいております。

「第一号議案・令和二年度収支決算」、「第二号議案・令和三年度の活動計画」、「第三号議案・令和三年度予算案」、そして「第四号議案・役員改選」までが審議していただく審議方法、同封のがき

本会報に同封された通常総会議案書に審議いただきたい内容が記されております。
本学土木系三学部四学科の主任教授の先生方より、本会会員向けに挨拶文をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

く御礼申し上げます。さて、土木工学科の近況について報告させていただきます。この四月には新入生二一四名、博士前期課程三〇名、博士後期課程二名の学生を新たに迎えることができました。一方、就職につきましては、皆様方の多大なご指導・ご支援により好調に終えることができました。令和二年度は、博士前期課程八名、学部二〇一名が卒業いたしました。業種別の主な内訳は、公務員七一名(三四%)、建設業五六名(二六%)、コンサルタント三〇名(一四%)、大学院進学三〇名(一四%)、運輸八名(四%)となっております。その他の各方面にも多くの学生を送り出すことができました。

NU Civil
日本大学理工学部 土木工学科

土木の世界 学科紹介 大学院紹介 研究室紹介 連絡情報 アクセス お問い合わせ

日本語 English 検索

日本大学理工学部
College of Science and Technology,
Nihon University

www.cst.nihon-u.ac.jp

交通システム工学科

学科Webサイト

在校生専用ページ 教職員専用ページ

学科概要

- 教養・基礎科学系
- 機械工学科
- 電気電子工学科
- 土木工学科
- 建築工学科
- 応用分子化学科

自然環境と調和した持続可能な社会基盤と安全な市民の生活空間、ならびに利便性の高い都市空間を創出します

土木工学科

土木工学とは人が快適に、豊かに生活し、社会活動を円滑に行うために必要な施設を整備する、私たちの生活にも密着した工学です。取り扱う範囲には道路、河川、上・下水、港湾、交通、エネルギーなどの施設があり、これらの計画、設計、施工、維持、管理の業務を幅広くカバーします。

地球規模で進む環境汚染への対応、増大するエネルギー需要への対策、地震・洪水などに

100年先あるいは1000年先まで大地に届いたあなたの思いが残るかもしれない。そんな夢をかなえる工学が、ここにある。

土木工学科
Department of Civil Engineering

土木工学で持続可能な未来を創る
シビルエンジニア

土木工学の4つの役割

まちをつくる

本学から培ったインフラ整備は都市の暮らしを豊かにしましたが、世界的インフラ整備は進められています。都市の暮らしがインフラ整備に支えられています。土木工学は、都市の暮らしを支えるインフラ整備に貢献する学問です。土木工学の学びを通じて、都市の暮らしを支えるインフラ整備に貢献することができます。土木工学の学びを通じて、都市の暮らしを支えるインフラ整備に貢献することができます。

日本大学理工学部 土木工学科

www.cit.nihon-u.ac.jp

各学科ホームページより

浅川菜美さん
「ASRの局所化がRC部材の構造性能に及ぼす影響」
増井啓登さん
「低落差部に設置する石組み粗礫斜路式減速工に關する実験的研究」

このような奨励賞のおかげをもちまして大学院生の研究活動におけるモチベーションも高まっており、昨年も学会等で優秀発表賞を受賞するなど活躍しております。あらためて御礼申し上げる次第です。

教員組織の面では、四月より園部雅史先生(測量学)と山田雄太先生(構造工学)が助手から助教に昇格されました。また、藤井大地先生(土木環境システム)が新任の助手として採用されました。

コロナ禍のなか昨年と同様に入構制限が続いておりますが、本年は大学院生の授業と学部生の実験、実習及び演習等の授業での入構が許されております。昨年の今頃は全学生の入構が制限を受けておりましたので、それと比べると新入生でも友達作りもできてきているように感じます。こ

の会報誌がお手元に届くころには、大規模職域や大学でのワクチン接種が始まっているかと思いますが、本学の学生にも早く実施され、今までもおりの通常授業になることを祈るばかりです。

さないうちが継続しておりますが、皆様方の健康を祈念しますとともに、今後ともご支援をいただけますようお願い申し上げます。理工学部土木工学科・土木工学専攻の教室主任を務めております梅村でございます。日大土木会の会員の皆様はじめ多くの校友の皆様には、日頃より土木教室の教育・研究活動並びに学生の就職に多大なるご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



理工学部
交通システム工学科
主任 小早川 悟

令和二年十月より、峯岸邦

夫前主任の後任として教室主任に就任致しました小早川悟です。

日大土木会の皆様方には、日頃より交通システム工学科の教育研究活動ならびに学生へのご支援をいただき、御礼申し上げます。

交通システム工学科の教室の動きですが、昨年度に新任助手として着任された青山恵里助手が、令和三年三月をもって退職され、国土交通省国土技術政策総合研究所の研究官に赴任されました。また、令和三年四月より、新任として谷口望先生を教授としてお迎えすることになりました。谷口先生は、鉄道総合研究所や前橋工科大学准教授などを経て、本年四月より交通システム工学科の教授に就任されました。谷口先生のご専門は構造工学や鋼・複合構造であり、構造力学や構造設計などの科目を担当していただいております。

生の卒業や就職状況につきましては、本年三月に、博士課程一名、修士課程十七名、学部生百十五名の修了生・卒業生を送り出すことができました。また、就職に關しても前年度と同様に、民間、公務

員、進学を合わせて就職希望者の就職率は一〇〇%となっております。これも、日大土木会をはじめと多くの皆様方のご支援の賜物と感謝いたしております。

一方、本年四月には一〇七名の新入生を迎え入れることができましたが、学科定員の二〇〇名には届かず厳しい結果となりました。昨年度の新入生は、新型コロナウイルス(SOVID-19)の影響でガイダンスをはじめ、四月からの対面での授業ができませんでしたが、今年度の新入生については、感染防止対策を取りながら、教室の使用人数を半分以上にして、対面でのガイダンスを実施致しました。また、授業につきましても対面とオンラインのハイブリッド方式で実施が進められており、学生も教員も試行錯誤しながらの授業が進められています。なお、大学院生と卒業生(学部4年生)については、事前申請をすることで、研究のための入構が認められており、不自由な状況ながらも研究教育活動を継続して行っております。

令和三年度も昨年度から続くコロナ禍により、様々な活動の制約がある状況が続いておりますが、この難局を乗り越えるべく最大限の努力を続けております。日大土木会の皆様方にはご支援とご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

工学部土木工学科
主任 仙頭紀明



工学部土木工学科並びに土木工学専攻の主任を務めております仙頭でございます。日大土木会の会員の皆様をはじめ、多くの校友の皆様方には、工学部土木工学科の教育研究活動、並びに学生の修学・就職支援に多大なご支援ご指導を頂いておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、工学部土木工学科の近況についてご報告させていただきます。入試状況につきましては、

では、今年も学科の入学定員(二五〇名)を上回る一六一名(内女子八名)の新入生が入学し、全学年でも定員を上回る学生数となっております。このような近年の状況を踏まえ、令和四年度からは、定員が一〇名増えて一六〇名となります。

令和二年度の就職状況は、校友の皆様方のご支援もあり非常に好調で、就職率一〇〇%を九年連続で達成しました。工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思っておりますので、その節はご指導賜りますようお願い申し上げます。

人事関係では、中村晋教授(地震工学)、堀井雅史教授(土木計画学)が三月末で退職されました。両先生のこれまでの教育・研究に対する貢献に感謝の意を表します。両先生のご退職に伴い、新任の三名の先生をお迎えし、若返った体制となりました。梅田信先生(准教授)は環境水工学、川崎洋輔先生(専任講師)は交通流解析学、石橋寛樹先生(助教)は地震防災を専門とされています。

また、土木工学科を退職された森芳信先生(日本大学名誉教授)におかれましては、長年の教育研究に対する功勞により、瑞宝中綬章を受章されました。この場を借りてお祝い申し上げます。

さて、今年度も感染拡大防止に配慮しながら教育活動を実施しております。一方、昨年度と比べ、より多くの科目で対面形式の授業となることでも、キャンパスに学生が戻り、大学らしい活気ある雰囲気も戻ってきました。学生は、友人と共に学ぶことにこれまで以上の喜びを感じながら、日々の学修に懸命に取り組んでいるところ です。

社会貢献の一環として「ロハスの池プロジェクト」(代ハス池)が開始されました。工学部に近くな古川池を対象として、大学、地域住民、行政が治水・利水・環境保全の課題に協働して取り組むものです。大学からは土木女子の会を初め、多くの学生がこのプロジェクトに参加することに、地域への貢献が期待されます。(関連写真・次ページ)

最後に申し上げますが、コロナ禍の早期の収束と皆様のご健康を心より祈念いたします。



写真 ロハスの池プロジェクトのミーティング状況(工学部)

生産工学科土木工学科
主任 小田 晃



日大土木会の皆様方には常日頃からご支援を頂き誠にありがとうございます。

さて、最初に卒業生と新入生の状況です。令和二年度は一八九名の卒業生を送り出すことができました。就職先内訳は施工会社が五四%(昨年度とほぼ同じ)、建設コンサルタントが一七%(昨年度より四%増)、公務員が九%(昨年度より一〇%減)でした。令和三年度の新入生は二〇三名であり、女子学生は二三名です。また、大学院(生産工学研究科土木工学専攻)への進学者が昨年度よりも二名増加し修士一年生が一四名となりました。

学科の話題としては、昨年一年間ほとんどの授業がオンラインであった二年生を対象

に、対面式の交流会とキャンパスツアーを実施します。今年度から徐々に対面授業が増えてきましたが、多くの授業はまだオンラインという状況です。この機会を通じて同級生とのコミュニケーションを図り、友人作りの手助けになればと考えています。また、土木棟である十四号館が昨年度耐震工事を行いました。ピロティ一部分を減築し、正門から体育館までの見通しが良くなりました。減築に伴って研究室が六部屋無くなり、今後予定している新規採用の先生方の部屋が足りなくなりました。この点につきましては今後、十四号館三階の教室を研究室に変更してもらうように学部と相談してまいります。

本学科所属の教員・大学院生との話題としては、秋葉先生、加納先生、赤津先生が2020年度石油学会論文賞を受賞されました。アスファルトを主対象とした研究成果では昭和五十一年以来四十五年ぶりの快挙とのこと。また、青山先生が「異文化融合型の製品開発を指向した大学院専攻横断型PBLの実践」の題目で関東工教育協会賞を受賞しました。今

後も学会等で活躍できるようにしてまいります。なお、令和二年度には佐藤克己先生が教授、山口晋先生が准教授に昇格されました。なお、伊藤義也教授、西尾伸也教授はご定年となり、西尾先生は特任教授として引き続き学生の指導に当たって頂いております。

訃報

昨年から本年にかけました、訃報が届いておりますので、この場を借りてご紹介させていただきます。

- 加藤 忠和 (昭和四十九年・生産土木卒)
- 川又 賢 (昭和四十九年・理工土木卒)
- 清野 茂次 (昭和三十一年・理工土木卒)・発起人・元オリエンタルコンサルタンツ社長
- 長崎 正明 (昭和四十六年・理工土木卒)
- 西村 國男 (昭和四十二年・理工経営卒)
- 長谷川 正人 (昭和四十年・理工土木卒)
- 柳 沼 正美 (昭和六十年・理工土木卒)

五十音順
敬称略

事務局より

会報第二十八号も無事発行することができました。コロナ禍で大学は手探り状況の中、授業実施に取り組み始めております。緊急事態宣言が発令されておりますが、ワクチンの接種も進んできております。コロナ以前の生活を忘れないうちに元の生活に戻るよう祈るしかありません。



(S・K)